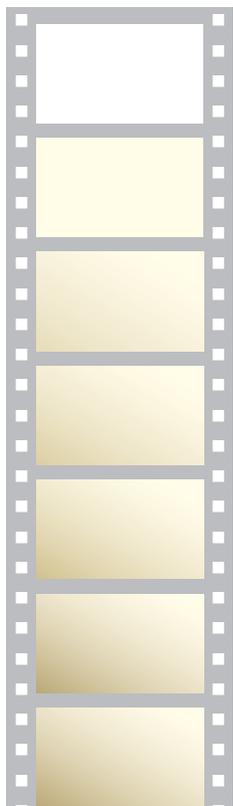
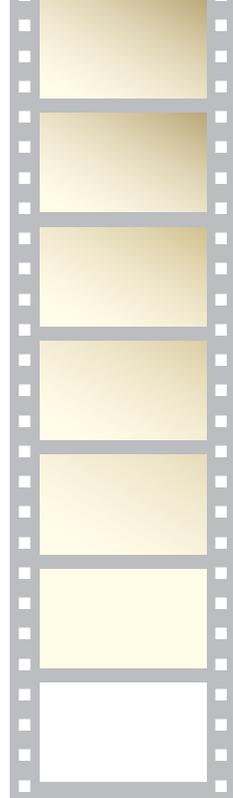


伸<sup>ノブ</sup>さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



## 第四十四回 「スクリーンのDJたち」①

スクリーンのなかにもDJは登場しています。思い出すままにご紹介しましょう。実在したアメリカのラジオDJ「ウルフマン・ジャック」は、自分自身の役で「アメリカン・グラフィティ」(73年製作・アメリカ映画、監督ジョージ・ルーカス、出演リチャード・ドレイファス、ロン・ハワード、ハリソン・フォードほか)に出演しています。(アメリカン・グラフィティとは、「アメリカの落書き」という意味)この映画は62年を時代背景にしているため、ウルフマン・ジャックのDJで、オールディーズ(当時ヒットした曲)を流しています。

ひげ面の顔とダミ声でお馴染みの「ウルフマン・ジャック」の本名は「ロバート・ウエステイング・スミス」といいます。

彼の活動のスタートは、メキシコのラジオ局。少人数で運営されるラジオ局が乱立するアメリカでは、DJの実力や人気が最優先し、日本と違い、番組を担当した

時点で権限と責任を持たされます。ウルフマンがほかのDJと違うのはレコードの制作に力を入れたことです。

映画「アメリカン・グラフィティ」で、特にメインになった曲は「ビル・ヘイリーと彼のコメッツ」の演奏と歌で「ロック・アラウンド・ザ・クロック」（意味は「時計まわりに踊ろうよ」）でした。

この曲は、シドニー・ポワチエ、ヴィク・モローが出演した55年公開のアメリカ映画「暴力教室」（監督リチャード・ブルックス、音楽チャールズ・ウォルコット）で取り上げられ、当時、全米第1位のミリオンセラーヒットを記録して、ロック時代の世界的流行の先がけとなりました。

そして18年後、映画「アメリカン・グラフィティ」で再び使用され、74年にリバイバルヒットしました。87年、ビル・ヘイリーはロックン・ロール・ホール・オブ・フェイム（名誉の殿堂入り）をしますが、すでに彼は81年、55才でこの世を去っていました。一方、ウルフマン・ジャックは、その後、映画やテレビに出演したあと、

95年7月1日、心臓病のため57才の生涯を閉じました。

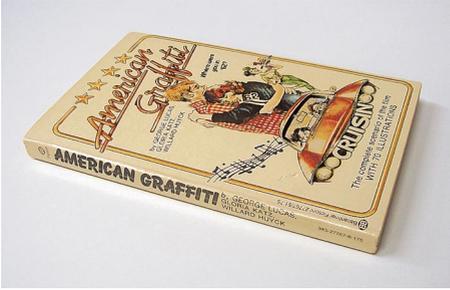
続いているDJは、ぼくがテレビシリーズの西部劇「ローハイド」以来大ファンのクリント・イーストウッドです。彼は初監督作品に、自分がDJ役（創作上の人物）を演ずる「恐怖のメロディ」（71年製作・アメリカ映画、監督クリント・イーストウッド、出演クリント・イーストウッド、ジェシカ・ウォルター、ドン・シーゲルほか。音楽ディー・バートン）を選びました。

物語の原案を書いたのは、彼が無名の俳優時代からの女友達でした。映画のタイトルは「プレイ・ミスティ・フォー・ミー」（「私のためにミスティという曲をかけて」という意味）です。

この曲「ミスティ」は、54年ジャズピアニストで作曲家のエロル・ガーナーが発表して評判になり、作詞家のジョニー・バークが歌詞をつけ、59年ジョニー・マティスが歌って大ヒット。その後、何人もの歌手により歌い継がれ、ジャズバラードのスタンダードナンバーになりました。

映画はその名曲「ミステイ」をアメリカのモントレー半島で人気のあるDJデИБ（イーストウッド）のラジオ番組に、毎晩リクエストする女性を描きます。実は、彼女はデИБのストーカー（しつこくつきまとう人）だったのです。またこの映画には、もう一曲、ロバータ・フラック（アメリカのシンガーソングライター）の大ヒット曲「愛は面影の中に」（イーワン・マッコール作詞・作曲）が、デИБの本命の彼女とのラブシーンに流れます。そもそもこの曲は、ロバータのデビューアルバム「ファースト・テイク」に収められ、約3年が過ぎようとした時、イーストウッドの映画に使用されました。このためレコード会社は、急ぎよこの曲をシングルカットして発表したのです。おかげで「愛は面影の中に」は、全米のヒットパレードで第1位に輝くとともに、グラミー賞の最優秀レコード賞を獲得しました。これは、イーストウッドがただの音楽好きだけでなく、彼の音楽的才能のレベルの高さを証明することになりました。

またこの作品には、彼の監督デビューを祝って「マンハッタン無宿」「真昼の死闘」



▲友人がアメリカ旅行した時のお土産にもらった「アメリカン グラフィティ」のノベライゼーション

「白い肌の異常な夜」、そして「ダーティハリー」でコンビを組むことになる、監督ドン・シーゲル（正式には、ドナルド・シーゲル。91年4月20日、78才・亡）が、バーテンダー役でセリフ入りのゲスト出演をしているのも見逃せません。

〈続〉

（文中敬称略）

伸

平成24年6月